

平成 14 年 10 月 17 日

国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC: International Coalition of Library Consortia)
第 12 回会合参加報告

千葉大学附属図書館
情報サービス課長 尾 城 孝 一

この度、国立大学図書館協議会の派遣事業の一環として、2002 年 9 月 19 日から 21 日にかけて米国ナッシュビルで開催された国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC: International Coalition of Library Consortia)の第 12 回会合に参加いたしましたので、以下のとおり報告します。

会議名：国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC: International Coalition of Library Consortia)
第 12 回会合

開催日：2002 年 9 月 19 日～21 日

開催場所：ヴァンダービルト大学マリオットホテル（米国ナッシュビル）

1. グリル（出版社やベンダーによる商品説明及び提案と質疑応答）
 - (1) Convey/OCLC Question Point グリル（チャットを利用した共同レファレンスツールの紹介とコンソーシアム向け提案）
 - (2) Digi-Net(チャットによるレファレンスツールである eLibrarian の紹介とコンソーシアム向け提案)
 - (3) Films for the Humanities グリル（視聴覚教材のデジタルライセンシングの提案）
 - (4) Consortialink グリル（小規模出版者の統合提供モデルの提案）
 - (5) Berkeley E-Press グリル（研究成果公表・雑誌刊行システム）
 - (6) Taylor & Francis グリル(電子ジャーナルのコンソーシアム向けモデルの紹介と提案)
 - (7) Books24x7 グリル（電子ブックのコンソーシアム・ライセンシングに関する提案）
 - (8) Sage グリル（SAGE 社による電子ジャーナル・ライセンシングの紹介）
 - (9) Association of Learned and Professional Society Publishers グリル（中小学会系出版者の共同の可能性に関する調査報告）

2. 討議トピック

(1) 予算削減への対応

前回の会合に引き続き、バージニア州やオハイオ州等における州予算の削減への対応策について、コンソーシアム間で意見交換が行われた。

(2) 共同ウェブ利用レフェレンス

イリノイ州のアライアンス・ライブラリ・システムから共同レファレンスのプロジェクトである Ready for Reference について報告がなされ、それに関して議論された。

(3) 図書館と授業管理システムとの連携統合

大学の授業を管理するシステムに図書館のサービスを統合する方策について、各コンソーシ

アムの事例に基づき討議された。

(4) 機関リポジトリの構築

カリフォルニア大学のCDL(California Digital Library)から eScholarship プロジェクトの現状について報告があり、それに基づき、機関リポジトリの技術面、運用面の諸問題について討議された。また、コンソーシアムによる機関リポジトリ構築の可能性についても検討された。

3. パネル・ディスカッション

電子ジャーナルのアーカイブと恒久的利用権に関して、ACS、LOCKSS、Elsevier、JSTOR から報告があり、それに基づき議論が行われた。

4. 運営会議 (ビジネスセッション)

ICOLC の運営・活動方針に関連して、以下の点について報告及び議論が行われた。

- (1) Elsevier Science のライセンシング・ミーティング
- (2) Colorado Alliance of Research Libraries の Gold Rush (電子情報資源の特定・管理ツール)
- (3) Luther および Cox からの調査協力依頼について
- (4) ARL による E-Metrics/COUNTER などの統計、指標などについて
- (5) ACS のアーカイブ提供問題
- (6) テレビニュースのアーカイブ・プロジェクト(TVNA)の将来について
- (7) 今後の ICOLC 会合の在り方について (開催場所の選定と e-ICOLC との連携)